

明珠

龍泉院
参禅会会報

従容録に学ぶ (一四)

第三九則 趙州洗鉢

〔示衆〕
衆に示して云く、飯来れば口を張り、睡来れば眼を合す。面を洗う処、鼻孔を拾得し、鞋を挽る時、脚跟を模著す。那時、話頭に蹉却せば、火を把つて夜深けて別ち覓めよ。如何んが相応し去ることを得ん。

〔本則〕
挙す、趙州に問う、学人、乍入叢林、乞う、師の指示せられんことを。「叢林、你においてまた悪しからず。」州云く、粥を喫したるや。〔渾金璞玉〕僧云く、喫了る。「久慣の衲僧、上座に如かず。」州云く、鉢盂を洗い去れ。「左猜することを得ざれ。」〔頌〕
頌に云く、粥罷れば鉢盂を洗わしむ、「快便、逢い難し。」豁然として心地自ずから相い符う。「ただ今日のみにあらず。」而今、参じ飽く叢林の客。「旧

に依って粥を喫し了れば、鉢盂を洗い去る。」しばらく道え、その間に悟ありや。「一人虚を伝うれば、万人実と伝う。」

従来と違った構成に、あるいはオヤと思われた方もあ
るでしょう。そうです。今回は「頌」が加わっています。
〔示衆〕と〔本則〕の分量が少ないので入れましたが、実
はこれが正式であり、『従容録』中、宏智の「頌」は重
要な地位にあります。従来はスペース的にやむをえず省
略していたわけです。

今回は、禅門の数ある公案の中でも、特に有名な「趙
州洗鉢」です。趙州については第六回の「趙州狗子」で
紹介したとおり、唐代の趙州観音院従諲和尚（七七八
八九七）のことです。この人に有名な公案が多く知られ
ているのは、それだけかれが並はずれた禅匠であったこ
との証拠ですね。

まず、万松の「示衆」をかいつまんで意識しておきま
す。



趙州洗鉢

「メシの時は口をあげ、眠る時は目をつむり、顔を洗うには鼻をさぐり、鞋をぬぐには手さぐりじゃ。そんな時、禪門伝統の公案にそむいたら、深夜に灯りでよく探しなされ。どうしたら公案のところに契うかな。」といったところです。

ここでいう禪門伝統の公案とは、つぎの「本則」を意味しています。

そこで「本則」をみましょう。趙州の禪道場に入門したばかりの新参者、「どうか仏法の道理をお教えください。」趙州「お前さん、もう朝粥は食べたかな。」「ハイ、いただきます。」「それなら、鉢を洗ってきなさい。」

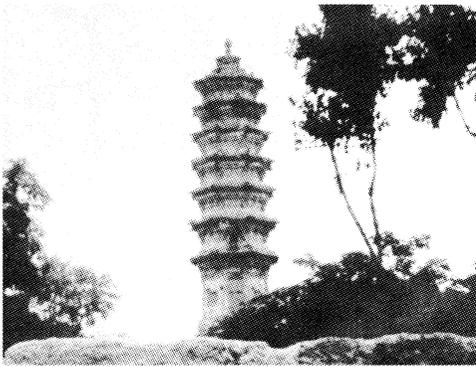
ただこれだけの問答ですが、そこにはくめどもつきぬ妙味が含まれています。まず二、三の字句の意味を記しましょう。「乍入叢林」は禪道場に入門したばかり、「鉢盂」は食事を盛る器のこと。万松のコメント、「渾金璞玉」とは純金と純玉のことで、かざらぬ純朴さというほめ言葉。「久慣の衲僧」は古参の雲水、「左猜」はウロツクことです。こうみると、万松は両者の問答のさまを、大いにほめたたえているのですね。

そこで「頌」を読むと、これはまた宏智の受けとめ方の深さにおどろきます。意識します。「粥を

食べたなら洗鉢させた、そのときカトリと道理に契う。いまの古参の雲水たちよ、悟りかどうかを云ってみな。」どうですか。

宏智は趙州と僧の言動をたたえつつ、後の人がそれを悟りだとして、悟りにとらわれると、せっかく公案が教えている仏法の日常性から離れてしまうのをいましてるのです。だから万松もまた「一人伝虚、万人伝実」と、一人が誤るとみなが付和雷同するおそれを指摘しているのです。

ですから私たちは、日常生活がすべて修行の場であるとか仏法の真理だとかを学ぶ時は、こうした宏智の警告を常に念頭におかねば



元代の趙州国師塔

なりません。禪の参究に、独り合点や独断は、もっとも禁物です。そこで、改めて趙州の言動をみましょう。「粥を食べたら鉢を洗いなさい」とは、ごく当り前のことです。仏法を学ぶ場は、坐禅堂や説法の道場ばかりではない。こんな卑近なところにもあるのだと趙州は日常生活に則して教え、新参の僧はそれをすぐに会得した。

おそらく、新参とはいえ、この僧はもうかなりの修行ができていたでしょう。

こんな趙州の教育のすばらしさ、それに応えた僧、唐代の禪はたしかに生きていますね。さきの「示衆」も、卑近な起床動作の中にひそんでいる深い仏法の道理について、万松の共鳴でした。

ところで、「趙州洗鉢」は「趙州喫茶去」の公案とセットにして理解されています。後者は、趙州が誰にでも「まあお茶でものみなされ」といった対機説法が、洗鉢と同じく禪の日常性をよく表わしているからです。ただし、一ぱいのお茶が無心にのめなければダメというむつかしさがありますが。すると、仏法の日常性といっても、それは修行のできた人だけのものなのでしょうが。そうではありません。仏法は万人は等しく開

かれています。たとえば、電車の乗降にもそれはころがっています。わたくしは、キップの券売機に千円札を入れ、五三〇円のボタンを押した時、千九百何円かのコインが出てきたことがあります。とっさに駅員さんの所へ行き、四七〇円を貰って残りを渡し、電車に乗って胸をなでおろしました。心に何の一念も浮かばなかったことへの安堵感からでした。

また、東京から電車での遅い帰途、隣の席で居眠りしていた娘さんが、亀有駅で気づいてとび降りたあと、ハンドバックが残されていた。やむをえず柏駅でそれを届けると、駅員さんがサイフや定期券の入っているのを確認し、私は住所と電話番号を書かされました。その夜、娘さんから電話で、無事に忘れ物が戻ったお礼をした

い由。私はすぐさま「恩は人に返せ」というから、あなたも人に遺失物を、といいました。娘さんの喜びとお礼の声。きつと何人もの他人に恩を返してくれたにちがいありません。

このように、卑近な生活の中に煩惱に対する正念のあり方や布施行の実践がいくらでもあるのですね。私たちは、食事やお茶も坐禅と同じく大切にしたいものです。

- 平成3年10月13日
- 得度者21名
- 戒師
龍泉院住職
椎名宏雄老師
- 大洞院、興陽寺、
観音寺、正泉寺の
各老師のご随喜を
仰いで、莊嚴のう
ちに円成す。



■在家得度式

参禅会発足
二十周年記念
特別行事実施

公開講演

■「禅を聞く会」



- 平成3年11月10日
- 会場／柏市第一生命ライフデザインショップ
柏ホール
- 演題と講師
「禅の源流をたずねて」
東京大学名誉教授
鎌田茂雄先生
「こゝろ自由自在」
柏市龍光寺住職
佐藤俊明老師
「椅子坐禅」(指導)
大洞院住職
木村誠治老師
- 来聴者／300名

母上への手紙

我孫子市 三町 勲

母上には八〇の橋を渡るこの年の瀬、誠にご健勝のご様子大変喜ばしい事でございます。

私が天徳山龍泉院の門を叩き、椎名老師のもとで坐禅を通して仏道を行ずるようになってから、はや一〇年になります。そして、このたび椎名老師のはからいで在家得度を致しました。法名は無心彰勲居士でございます。

信仰の深さは深遠なもので、日々の心の在り方によるもの、われわれ凡人の計り知れるものではありません。しかし、修行のための限りない石段の一段目を踏みしめた気持で、身がひきしまる思いでございます。

かえりみますと、一年前に私も参禅会の年中行事である一泊参禅会が栃木県の常真寺で行われました。その時、椎名老師から白隠禅師の『坐禅和讃』についてのご講話をお聞きしました。内容は信仰を志す者への心構えであり励ましの言葉であります。七五調の流れるような美しく暖い言葉が私の心を大変うったのです。それ以来幾度も幾度も読み返し、今様の

言葉にしてみようと思うようになりました。しかし、今様の言葉にすると白隠禅師のお教えが薄れてしまうのです。何度書き直しても結果は同じでした。

得度した後のことです。拘りのない私の言葉にしてみようと考えました。標題も『おのれは仏』としました。母上の信仰の一助となれば幸であると思ってお贈り致します。

白隠禅師は江戸時代中期の臨済宗の高僧で慧鶴（一六八五〜一七六八）と呼ばれます。駿河の国で生れ、松陰寺で出家し信濃の正受院の慧端に師事して修行をつみました。八四才の高齢で亡くなるまで、あらゆる階層の人に分り易く仏の道を説いて歩いたと伝えられています。

棟方志功「観音経 版画冊＝自在の冊＝



合掌

『おのれは仏』

生まれて人は仏なり
水が無ければ氷無し
己が仏忘れ去り
まさしく水の中にいて
仏の衣着せられて
煩惱劫の迷いには
くらき心を彷徨いて
己の中に仏みよ
己忘れて助け合ひ
日々に重ねし善行が
たった一つの善行も
己の劫は消え失せて
ただ有難きこの言葉
真の喜び得る人は
先祖の前に平伏して
己は本来うつろにて
日々悔のない行をつみ
今の己を己とし
自我の念を捨て去りて
童の如く清ければ
この世で何を求めるか
そこに浄土が待っている

水と氷を知るように
己無ければ仏無し
幻おうは愚かしい
喉の渴きを叫ぶさま
心乏しく生きるのか
己の愚痴の繰返し
仏の門は開かない
これぞこの世の喜びぞ
念仏唱え行をつみ
極楽浄土の橋渡し
昨日重ねし罪を消し
極楽浄土の道標
心の中にとどめおき
此に優れる幸なし
おのが心をうちみれば
拘りのない清きわれ
一筋の道迷い無く
この世はどこもわが宿
歌い踊りも仏の道
悟りの世界見えてくる
いづれ命消え失せて
生まれて人は仏なり

ある日の坐禅

柏市 安本 小太郎

「大哉解脱服、無相福田衣、被奉如来教、広度諸衆生」、塔袈裟の偈を三唱するのが、在家得度を受けた為、変ったことである。

格子を受けて以来半年近くたつが、その日によって、それぞれ、何とも云えない新鮮味がある。

丁度、坐禅の調子が出かかったのか、袈裟功德なのか、禅定が継くようになったのは間違いない。一回だけ掛けるのを忘れて、左右揺振しようとして、気が付いたので、取りに行つて、やり直そうと思つたが、そのまま坐つた。やはりその日の坐禅は駄目であつた。身相すでに整えて、欠気一息して……普勸坐禅儀の通りに坐り始めるが、欠気一息は酸欠になつて苦しい。堪えられる限り、息を吐くことにしているが、苦しくてまだ、息が残っているのに休めてしまう。先人の苦行を思うと弱い自分进行を思ひ知らされる。それでも、体の中の痰等が出て、後の呼吸が楽になるので、吐けるだけ吐くようにしている。

さて、坐上の胸中だが、毎回毎回異り、軽安の心所が現われ、持

続する時間がまちまちで、消えたり、現われたりのくり返して一定しない。それでもだんだんと確かで崩れにくくなってゆくことは間違いない。ここで以前に聞いた、坐禅のコツは、腰を落すこと、奥歯を嚙むこと、動かないこと、というのが思い出される。十年程前、前歯を差歯にして、奥歯を持続的に嚙合すことが出来ず口中に唾液が溜つたりして、呑み込んだりするので、禅定が途切れたり、弱まったりする。釈尊は前正覚山を龍王の懇願にも不拘、成道の地とせられてなかつたのは、地盤が振動する為であつた、というのが出来て来る。

それでも坐り続けていると、身体が上方に伸び、周囲に拡って、尻の痛みも薄れ、物音遠ざかり、第六意識の動きも気にならぬ。このまま坐り続ければ、非思量只管打坐になり、自他の区別の無い世界が開けそうであるが、次にやることあることにして、開静としてしまう。終つて時計をみると一時間前後である。

小さな転機

柏市 五十嵐 嗣郎



私が龍泉院の参禅会で坐り始めてから、早くも八年が過ぎました。参禅会に入門しなければ一生読むことはない正法眼蔵を「二顆明珠」を始め「坐禅箴」や現在講義中の「諸悪莫作」を含めて一〇巻もご老師より懇切・丁寧な提唱を受けることができました。また、一泊参禅を通じて各所の名利を訪れることができたし、雲水修行の一端を味わいさせて頂きました。

さらに、去年は未熟者にも拘わらず得度させて頂き、法名を授けてもらいました。真に有難い事です。

参禅会の入会時は、深い考えや悩み、気負いがあつたわけではなくカルチャーセンターに参加するよくな軽い気持でした。しかし、毎月の例会に参加し、ご老師の法話や茶話会での皆様のお話し、幹事さんの献身的行為に接して行く間に、仏について、禅について、自分とは何かなど、人生の基底につ

いて考える機会が段々と多くなり、人生の目的を宗教的に把握するようにもなりました。参禅会へ入門するまでは宗教は宗教、自分の人生は人生と二元的に思っていました。ひらたく言えば宗教は御祈祷の様な願いごととする所、あるいは死者の霊を弔う所という程度の理解でした。

以来八年、最近になって宗教観が以前のものと変わつて来たことにふと気が付きました。ご老師が常に言われているように、宗教とは「人間いかに生きていくかの根本を明らかにすることである」かが少しづつ実感するようになってきたからです。即ち、坐禅を含めた修行が単なる修行のための修行ではなく、日常生活の行動基準に禅的な考え方が少しづつ反映するようになってきたのです。

これまで一泊参禅で行われる作業では、ふだん家では全くしない便所や庭の掃除も大事な修行の一

小さな袈裟をいたゞいて

松戸市 小畑 節 朗

環で、坐禅と等しく考えるから一生懸命に行います。しかし、これでは修行は修行、日常生活は日常生活と別物になってしまふのです。

ところで、最近次のような経験をしました。それは名古屋の単身マンションで、坐禅を行おうと思ひ、ふと囲りを見ると室内が埃っぽくしかも雑然としており、とても坐る気持になれず、とりあえず掃除を始めた時のことです。今迄、カミサンに注意され渋々やっていた掃除が、気持ちよく坐るためには面倒臭い苦役も活々と楽しい任務、即ち修行に変化しているのに気付いたのです。あの一泊参禅の時の作務と同じ気持で我家の掃除をしていたのです。

この気持を更に拡げて行けば、自炊や洗濯など身回りの仕事も雑用ではなく、気持ちよく坐るための修行と思えるようになるはずです。

『典坐教訓』も、食事面から修行僧が気持ちよく坐禅三昧になれるよう、いかに心配りすべきかを述べたものと思います。これからは、日常生活の全てが気持ちよく坐ることへの修行であると自覚し、毎日の行動一つ一つを意味あるものとしていきたいものです。

『正法眼藏』坐禅儀の巻に、「坐禅のとき、袈裟をかくべし蒲団をしくべし。」

という一節があり、又、袈裟功德の巻に道元禪師が中国に修行中のこととして、

「開静のときごとに、袈裟をさへて頂上に安じ、合掌恭敬し一偈を黙誦す、その偈にいはいはく、大哉解脱服、無相福田衣、被奉如来教、広度諸衆生。」

ときに予未曾見のおもひを生じ、歡喜身にあまり、感涙ひそかにおちて衣襟をひたす。」

僧堂の内にあつて、毎朝、開静になつて袈裟を著するとき、袈裟を頭上に乗せて合掌して右の「塔袈裟の偈」を誦えて、お袈裟をつけたときの感激を識しておられる。もうご承知のとおり「衣鉢を継ぐ」の衣は佛祖正伝のお袈裟を示している。

先年、千葉県曹青主催の「撰心会」に参加させていたゞいた時、僧侶共に行じる撰心であるから、朝の大開静のときは、僧侶の方々は「塔袈裟の偈」を誦して、お袈裟をつけられる。俗の方はその間、

偈はお誦しても、頭上に袈裟なく、まったく様にならない。

たまたまその時の講師が酒井得元老師で、坐禅の時の着衣は、なるたけ、寛たりしたものを着すべし、また、坐禅は塔袈裟で行うべしのお示しで、小生の言わずもがなの質問にお答えをいたゞき、「袈裟をつけると坐禅が異なります。」と、おっしゃった。

これは、何を意味するのかと、以来、心に掛かっていたのですが、答は問処にあり。道元禪師は、明確な答をすてにお示しであったのです。

『眼藏』伝衣の巻に、「在家の男女なほ佛戒を受持せんは、五条・七条・九条の袈裟を著すべし、いわんや出家人いかでか著せざらん。はじめ梵王六天より、姪男・姪女・奴婢にいたるまでも、佛戒をうくべし、袈裟を著すべしといふ。中略―畜生なほ佛戒をうくべし、袈裟をかくべしといふ。佛子なととしてか佛衣を著せざらん。」

しかあれば佛子とならんは、天上・人間・国王・百官をとはず、

在家・出家・奴婢・畜生を論ぜず佛戒を受持し、袈裟を正伝すべし。まさに佛位に正入する直道なり。」袈裟をかける(正伝する)ということは、佛戒を受持することなのだ。と、これは大変なことであつたのです。

そこで、また『眼藏』受戒の巻を、読んで参りますと、

「西天東地、佛祖相伝しきたれるところ、かならず入法の最初に受戒あり。戒をうけざれば、いまだ諸佛の弟子にあらず、祖師の兒孫にあらざるなり。離過防非を、参禅問法とせよがゆゑなり。戒律為先の言、すてにまさしく正法眼藏なり。」

と、言っておられるのです。

「袈裟をかけると坐禅が変る」と言われたことは、いわゆる佛法の大海に入る、佛祖の教えを本当に信ずる、という大原則はここだ。と永平高祖が示されているのだぞ、との有難い老婆心のお示しであつたのです。

省みて今、私にとって坐禅は何んであつたのか、坐禅を道真に使つてたのではないか、という懺悔の思いがあります。

坐禅というものがあつて、われというものが居て、坐禅を行じて、云々。という、坐禅を人生の裝飾

—藤原氏海外便りご紹介—

椎名老師様、参禅会の皆様

拜啓、仲秋の候、ご老師様、会員の皆様にはまずまず御健勝のこととお喜び申し上げます。

私こと、インド養蚕開発計画（JICA）プロジェクトの病理関係の専門家として10月17日、インド国立養蚕研究所に着任致しました。任地のマイツールは、南インド、デカン高原南端の旧城下町で、街も大きく商業的にも中心になり、色々な店が立て込んでいますが、気に入ったものがありません。“郷にいれば郷に従う”で生きるには不足ありません。この季節に南インドでも例年になく雲が厚く、日本の秋雨の様な雨が終日降り続き、洪水で浸水した家屋もあり、肌寒く感じる気候です。この地で思わぬことに出会いますが、現地を知るには勉強になります。こうしてタイプを打ちながらも、断続的に停電が起こることも一つのインドの事情です。でも、インドの人々はそれを苦にする様子もなく、かえって豊かな日本が恐ろしくさえ感じます。任地では、NHKの短波放送がよく受信でき、日本語と隔離された環境ではそのニュースが楽しみです。しかし、インドの環境下で聴く日本のニュースには違和感を覚えます。視点を自分において他人を理解することの難しさを知らされます。インドの人たちを少しでも多く理解したいと思っています。

インドは世界第二位の養蚕国で、研究所の組織はむしろ日本より大きく、研究者も英国留学の経験者が多く、英語も立派です。言葉では押され気味ですがなんとかかなりそうです。私の専門は蚕の病気で原生動物を専攻しています。パスツール（仏1875）が発見し、母親から子に伝染して欧州の養蚕を壊滅させた病気です。その病気の研究が私のライフワークです。インド養蚕ではその病気が今日の問題で、社会的な問題になり、先日の新聞では、もし政府が具体的な対策を行わなければ、かつての欧州のようにインドの全養蚕業は崩壊するだろう、と強い論調です。専門家として、これが対応にかなりの困難がありますが、研究者として興味があります。勝手な人間から見れば病原と蔑視される3ミクロンの単細胞の原生動物にも、それなりの生命があります。原生動物の地球上の歴史から見れば、人間の歴史は一瞬です。彼らの生活を見ると、彼らの仏性を感じます。彼らは人間の先師であり、侵すべきでないと思いますが、人間の豊かさのために、彼らに挑戦しなければならぬこともあります。生物学を専攻するものとしては、その生物を通じて自分の仏道に精進したいと思っています。

向寒の折から益々のご自愛を祈念いたします。略筆ながら着任のごあいさつ申し上げます。敬具

1991年11月1日

藤原 公

勤務場所 JICA C/O Central Sericultural
Research & Training Institute
Srirampura, Mysore-500 008, INDIA

品ぐらいに考えていた。いわゆる為坐禅よりもっと悪い為坐禅をしている私がここにいることを発見して愕然としたのです。昨年在家得度を受け、小さなお袈裟（絡子）をいたゞいて、その感はいよいよ深いものがあります。良寛さんの詩に、

大いなる哉 解脱服

無相福田の衣

佛々方に正伝し

祖々親しく受持す

広きに非ず 復た狭きに非ず

布に非ず 也た糸に非ず

恣態に奉行し去って

始めて衣下の児と称す

とあります。本来なら佛法を正しく受け継いだ証拠としてお袈裟は授受されていた。ですから袈裟はモノではなく、古佛以来の正伝そのもの、シンボルであると。だから広狭でもなく、布とか糸とかを云々することではない。ここをわかつて修行する人こそ、眞の修行者なのだと言っているわけですが、現代における衣下の児とは何か、在家は衣下の児になり得るのか、種々の思いが湧いてきます。しかし、それを一時お休みにして、坐禅を対象としないで、坐

つゝなんて、殊更にいわないで小さなお袈裟を頂いて、日々、サ

ラサラと坐り続けたいと念じている此頃であります。

◇平成三年度龍泉院参禅会会計報告◇

(平成三年一月〜十二月)

〔収入〕

繰越金 一七、六〇五円

浄財 五〇六、〇七七円

特別行事関係会費等(新年会、一泊参禅会、講演会、成道会)

一、〇三四、七八六円

預金利息 一、六〇六円

合計 一、五五九、五三四円

〔支出〕

明珠印刷費 一三八、三二九円

通信費 一七、四七三円

写真代 一五、七五二円

今泉章利、杉浦上太郎

慶弔費 二〇、〇〇〇円

特別行事関係支出(新年会、一泊参禅会、講演会、成道会)

一、一二四、八八七円

次年繰越 二四三、〇九三円

合計 一、五五九、五三四円

皆様の真心のこもった御浄財により、平成三年の諸行事が無事円成

できましたことを、厚くお礼申し上げます。(平成三年度年番幹事

合掌

龍泉院参禅会簡介

- 一、日時 毎月第四日曜午前九時より（初参加の方は八時半までに来山のこと）
- 一、坐禅 止 静 鐘 三声 坐禅
經行 鐘 二声 經行
放禅 鐘 一声 放禅
- 一、講義 木版三通 開經偈を唱えて「正法眼藏」の提唱を聞く
講師 龍泉院住職 椎名宏雄老師
- 一、座談 自己紹介の後、茶を喫し座談
正午解散
- 一、参加資格 年齢、性別を問わずどなたでも参加できます。
- 一、会費 無料
- 一、成道会坐禅
月例参禅会の他に毎年一二月の第一あるいは第二日曜。（本年は一二月六日）
积尊成道を讃え坐禅、成道会法要の後、法話を聴聞、点心（昼食）を共にする。

沼南雑記

〔参禅会記録〕（ ）内は座談の司会者

平成三年

一〇月一三日

在家得度式 得度者二一名

一〇月二七日 二二名

（武田博志）

十一月一〇日

「禅を聞く会」 発足二〇周年記念公開講演を開催。

来聴者 約三百名

十一月二四日 二七名

（添田昌弘）

十二月八日 成道会 三九名

今回より、法会配役を会員が行う。差定に従い成道会を厳修す。

成道会幹事 杉浦上太郎

写 真 中島南洲男

一二月二二日 二六名

今泉 章利

（五十嵐嗣郎）

平成四年

一月二六日 三二名

（政安裕良）

二月三日 二九名

（八木下真司）

三月一五日 懇親会 一八名

於 柏市 芳野屋 徳山 浩

平成四年々番幹事 徳山 浩

武田博志

三月二二日 三六名

（佐藤恒彦）

▼このたび高野さんから引継いで小畑幹事と共に、明珠の編集をさせていただくことになりました杉浦です。長年努力されてこられた高野さんにひたすら感謝します。

▼昨年は、当参禅会が誕生して二〇年を迎える記念すべき年でした。二〇年……待てば長く、過ぎれば短い歳月感ではありません。

が、当参禅会における二〇周年という歳月は決して短くはなく、ズシツとした心に滲みる重みを感じます。それは椎名老師が、私たちが在家の導きのために、ひたすら努力を積み重ねてこられた足跡。また高間代表、小畑幹事、その他諸先輩方の、その支えの努力が相乗して、そう感じるのだと思います。

二〇周年を記念して実施された諸行事で、多くの会員が熱く燃えたのもその証ではないでしょうか。

▼「坐禅を聞く会」講師佐藤俊明老師、「成道会」時には椎名老師、また折々に高間代表より貴重な御本を賜りましたことに感謝します。

▼平成四年度の年番幹事は、前年度幹事の今泉章利氏と杉浦より、徳山浩氏と武田博志氏にお願いいたしました。何卒今年一年間宜しく願っています。（杉浦記）